

福岡県の胃がん検診の受診率
33.4%と低いのが現状

全国平均 36.7%
福岡県 33.4%

胃がんは
リスクが高いのに
受診率が
低いのがね



低い検診受診率
2012年の「がん対策推進基本計画」では、がん検診の受診率50%が掲げられています。2013年の胃がん検診の受診率は全国平均で36.7%。福岡県では33.4%とまだまだ低い受診率です。
早期発見だと、治療費も再発リスクも抑えられますが、進行がんならば、治療費も高額になることが多くなります。初期のがんには、ほとんど自覚症状がありません。自分や家族のためにも検診に関心を持ち定期的な検診を心がけましょう。

がんと診断されたあとの医療費として、1年で最も多く支払った金額の平均は約115万円



入院よりも
通院が
増加傾向

入院よりも通院が増加傾向にあります
日本医療政策機構・市民医療協議会が政策情報センターの「がん患者意識調査2010年」によると、がんと診断された後の医療費として「1年間で最も多く払った金額」の平均は、約115万円。入院での治療よりも、通院での治療が増加傾向にあります。がんは他の病気と違い、「再発」や「転移」というリスクもありますので治療が長期にわたることも、長期の治療となると、収入面にも影響してきます。これも考えておかなければなりません。

がんと診断された時に、まとまったお金が支払われるように備えておく



治療の幅を、広げるためにも保障を備えておくことが大切なんだね

治療法によって治療費が変わってきます
がんになった時に、選ぶ治療法によってかかる治療費は様々です。治療などの出費に対応できる経済的な備えがなければ、自分が望む治療を受けられないこともありま。経済的な悩みで、より良い治療法の選択をあきらめることになったり、心の病気を引き起こすこともあります。
入院時だけでなく通院の保障や、がんと診断された時にまとまったお金が支払われるような保険や共済も検討しておきましょう。

《経済的なリスクをコントロールしましょう》

がんになる、ならないは自分でコントロールできないことが多い

のですが、経済的なリスクは自分で備えることができます。

公的保障を理解し、不足分を民間の保険や共済で手当てするなど

して、がんへの経済的な備えができているか確認してみましょう。



次のページに、がんの入・通院を1日目から保障する「県民共済の特約」の情報も記載されていますので、ぜひご覧ください。



ファイナンシャルプランナーが解説

誰にでも起こりうる がんのリスクに備える大切さ

最近、テレビなどのメディアでも度々取り上げられ、改めてがんの恐ろしさや検診の大切さが注目されています。「がん情報ナビゲーター」の資格を持つ、ファイナンシャルプランナーの世継さんに、がんにかかる年代や発症しやすい部位、現在の治療などを解説していただきました。

監修

よっぴゆうこ
世継祐子さん
ファイナンシャルプランナー
がん情報ナビゲーター



福岡県出身。久留米市役所での勤務経験を経て、法政大学法学部を卒業。2002年にファイナンシャル・プランナーの資格を取得。企業や個人の顧問ファイナンシャル・プランナー、各種セミナーの講師を務める。NPO法人「キャンサーネットジャパン」認定の「がん情報ナビゲーター」の資格を取得。テレビ・雑誌などのメディア取材多数。
<http://www.ff-fukuoka.com>

がんは日本人の死因トップ
がんによる死亡者数は1981年に脳血管疾患の死亡者数を抜いて以降、日本人の死因のトップです。2014年には36万8103人に達しほぼ30%を占めています。これは交通事故で亡くなった人の90倍にもなります。死因のトップは男性が肺がん、女性が大腸がんです。主要5大がんとされるがんについては、厚生労働省がこれらのがんについては、検診の効果科学的に証明されているとして検診を推奨しています。最寄りの検診施設などで気軽に検診を受けることができます。

最近、テレビなどでがんになったことを公表される方も多く、人ごとではないような気がします。なったらどうしようと不安なのですが、なにか備えておいた方がいいのでしょうか。

福岡市在住 28歳女性



出典：厚生労働省「平成26年(2014)人口動態統計」

《主要5大がん(胃がん、肺がん、乳がん、大腸がん、子宮がん)》

男性では、40歳以上で胃、大腸、肝臓の消化器系のがんの死亡が多く、

70歳以上では、肺がんと前立腺がんの割合が増加傾向にあります。

女性では、40歳代で乳がん、子宮がん、卵巣がんの死亡が多く、

高齢になると消化器系のがんと肺がんの割合が増加傾向にあります。



年齢によってもかかりやすいがんの部位が変わってくるんですね。



乳房再建が保険適用に

日本人女性がかかるがんの部位の中でも最も多いといわれている乳がんには、「乳房温存術」もしくは「乳房切除手術」の術式があります。「乳房を再び作る」乳房再建手術は、自分のおなかの筋肉、脂肪などを使って乳房を作る方法と、シリコン製の人工乳房を挿入する方法があります。以前は全額自己負担で100万円以上の費用が必要でしたが、現在はどちらも保険適用となっています。健康保険適用になれば、高額療養費も対象となる耳寄りなニュースです。

知っておきたい女性特有のがん

女性特有のがんは「エストロゲン」という女性ホルモンの一種が深く関わっています。20~30代から増えるがんもありますので注意しておきましょう。

乳がん……30代から増加し、40代後半でピークに
子宮体がん……40代後半から増え始める
子宮頸がん……20~30代の若い世代の発症率が高い
卵巣がん……ピークとなるのが50代前半の閉経前後